



第五小だより

生き生き学び、楽しくのびのび活動する、元気な学校

令和3年10月号

朝霞市立朝霞第五小学校

朝霞市泉水3-16-1

TEL048-462-0455



心をととのえる

校長 三好正浩

秋の訪れとともに、少しずつ子供達の服装も長袖へと替わってきました。季節は変わっても子供達の元気さに変わりなく、休み時間には運動場で遊ぶ元気な姿が見られます。

9月初めに実施しました分散登校の折には、ご家庭でのオンライン学習へのご協力や学校でのご支援など保護者の皆様、PTA役員の皆様、絵本パパママの皆様に多大なお力添えをいただきました。学校が、たくさんの方に支えられているありがたさを改めて実感いたしました。本当にありがとうございました。

さて、埼玉県では、毎日の学校生活や家庭生活において必要な基本的な生活習慣や学習習慣の中から、これだけは必ず身に付けさせたい基礎的・基本的な事柄を選び出し、具体的な行動目標として「規律ある態度」達成目標を設定しています。その中に「靴そろえ」があります。靴を揃えるという行為についてですが、禅宗の『脚下照顧』（きゃっかしょうこ）という言葉をご存じでしょうか。この言葉の意味は、「自分の足元を照らして顧みよ」という意味です。そこから、「履き物を揃えることで、自分の行いをよく見て、よく考えよう。」となったそうです。たとえば、たくさんの方が集まる場所で使うスリッパなどは、次の人が使いやすいようにかかとを手前にして揃えます。これは、次に使う人への心遣いであり、思いやりでもあります。揃ったスリッパを見た人は、気持ちよく使うことができます。履き物をただ揃えるだけでなく、その行為から自分は、他の人のことや周りの様子を考えて行動できているのか。自分の行ったことがどのようにつながっていくのかを考えることが大切になります。自分の足元をしっかり見つめ、自分の行動に責任を持ち、思いやりを持って接することの積み重ねが必要になります。この相手を思う「心」、相手を思う行為が「美しく」感じられるのだと思います。

子供達には、小さな行為の積み重ねにより、よりよい人間性を、そして「美しい心」を育ててほしいと願っています。



右の詩は、長野県 円福寺藤本幸邦元住職が、禅宗の『脚下照顧』の教えをもとにつくられた詩です。

はきものをそろえる
はきものをそろえると心もそろう
心がそろうとはきものもそろう
ぬぐどきにそろえておくと
はくどきに心がみだれない
だれかがみだしておいたら
だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと
世界中の人の心もそろおうでしょう

藤本幸邦